

「おなかからあふれんが、十日満月（はち／＼に廿四日）」

暖かごと共に境内のしだし桜を咲き始め、春の彩りが浄泉寺にも訪れてきました。春は、新たな出会いと別れが、たくさん、想いの中で交錯する季節でもあります。

逢うは別れのはじめ

人生は出会いと別れの繰り返しです。学校では入学式や卒業式があり、恋愛では交際や破局があり、人生では誕生や死があります。いつ、誰と、どんな、出会い方、別れ方をするかは分かりませんが、確実に今にかけていることは、「出会いの後は、必ず別れがある」ということです。「逢うは別れのはじめなり」ということわざがあります。表面的な意味は、「出会った人とは、必ず別れる」という意味ですが、このことわざに込められている真の想いは、

別れの悲しみがあるのは、出逢った喜びがあったからこそ。その事には、始まりがあるのは、終わりがあり、果てもあるべきである。出逢いと別れを同じように訪れるものだから、つねに出逢いの「今」時間を大切に過ごすことが大事である。■
というものです。

一期一会

はじめに申し上げましたように、いつ、誰と、どんな、出逢いや別れがあるかは分かりません。しかし、別れがあるからこそ、出逢いの価値は深まり、一緒に過ごす時間が、かけがえのない大切な時間であることに気付かされます。一期一会とは、一生に一度の出逢いという意味です。だからこそ、その覚悟をもち、出逢いに感謝する心で、お互いに想いを合点し、舞いとなり、共に豊かな人生を暮らしていけると思えます。一緒にたくさん「想い」と共有してきたからこそ、たとえ別れたとしても、相手に喜んでもらえるように生きたいと私は願っています。

愛別離苦

仏さまは、教えの中で、大きな苦しみ一つとして「愛別離苦（あいべりく）」という苦みを説いています。これは、「いつかは必ず親愛なる人と別れなければならぬ」という苦しみです。この経験をしていない人はいません。

この時に、別れを辛いこと、苦しいこととして終らせたいのではなく、「出逢いがあれば必ず別れがある」ということをしっかりと自覚し、自分がどう生き抜いていくのか、どこまで大切で、その中から、苦痛と共に受け入れていく柔軟な心が芽生えてくると思えます。

どうせ別れるからと開き直って出逢いを嫌うのではなく、別れがあるからこそ巡り逢いとこの時間を大切にしていきたい。そうすることで、人生は輝きを増していくと思えます。たくさんの方々と、歡び合える時間、ワクワクする時間を共有しながら、生き抜いてきた本当の意味と一緒に体感したいと願っています。

